

平成29年度 事務事業評価シート

事務事業の概要	事務事業名	福祉のまちづくり推進					所管	福祉部 福祉課
	行政計画	事業NO.	87	計画事業名	福祉のまちづくり推進			事業の開始・終了年度
	長期総合計画体系	[基本目標] II-1. 個性を活かしたまちづくりの推進 [小 柱] (2) 快適で利用しやすいまちづくり [施 策] ②だれもが利用しやすいまちづくり					[事業開始] 平成14年度 [終了予定] - 年度	
	根拠法令等	その他	[法令等名]	東京都福祉のまちづくり条例				
	事業対象	一般区民、区立小、中学校の児童、生徒						
	事業目的	福祉のまちづくりの普及啓発に努め、「心のバリアフリー」を推進する。						
	事業内容	①区内の小・中学校において、児童・生徒を対象とした高齢者疑似体験及び車いす体験の実施 ②「心のバリアフリー」パンフレットの作成 ③磁気ループの貸出し						
	委託の有無	一部委託	委託内容	高齢者疑似体験の実施				
補助金の有無	都							
事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (30年度)	26年度	27年度	28年度	
	活動指標	高齢者疑似体験実施回数	回	16	10	11	15	
	成果指標	高齢者疑似体験参加者数	人	900	524	616	836	
	決算額 (単位：千円)					1,176	1,359	2,253
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト (人件費など)				2,125	2,406	2,229
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)				1,177	1,360	2,253
		その他のコスト (扶助費・補助費など)				0	0	0
		総経費				3,302	3,766	4,482
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)				0	0	0
		その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)				587	678	1,124
一般財源 (区負担額)				2,715	3,088	3,358		
前回評価から改善した事項	3年に1度作成している「心のバリアフリー」パンフレットに、障害等の解説や対応方法に加え、最近の国や区の動きを周知する記事を掲載した。							
評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	3	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、おもてなしの機運が高まる中、児童・生徒が体験学習を通じて、心のバリアフリーについて学ぶことは重要である。					
	効率性	3	車いす体験は社会福祉協議会のボランティアの協力を得て実施するなど、効率的な運営に努めている。					
	手段の適切性	3	高齢者疑似体験及び車いす体験は児童・生徒の貴重な体験の機会となっており、福祉のまちづくりの普及啓発にとって有効かつ適切な手段である。					
	目的達成度	4	実施を希望した全ての学校で体験を行ったことにより、実施回数、参加者数ともに増加し、体験を通じて「心のバリアフリー」の普及啓発は進んでいる。					
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	維持	
福祉のまちづくりにおいて、ハード面とともにソフト面の「心のバリアフリー」は欠かせない要素である。関係部署と連携しつつ、本事業では区内の小・中学校の児童・生徒に対して普及啓発を続けていく。						拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了		